

スポーツ・コンベンションセンター整備・検討の背景

1 現状

- 県総合体育センター体育館（以下、「現体育館」という。）は、体育振興を通じて県民の体格の向上、青少年の健全な育成を期するための場として、本県出身の飯野海運（株）元社長、故俣野健輔氏が私財を投じ、昭和35年（1960年）に竣工

○競技スペース：1,320㎡（バスケットボールコート：2面） ○観客席：1,739席

○最大収容人数：4,400人

2 課題

- 現体育館は、築後60年以上が経過
- 耐震性には問題はないものの、老朽化が著しく、必要な補修等を行いながら機能を維持
- 一定規模以上の競技大会の開催等には狭隘であり、現在多くの屋内競技の県大会等において、複数会場での分散開催や夜間に及ぶ大会運営を強いられている
- 全国・国際大会の誘致にも支障が生じている

十数年間にわたり、県政の重要課題として検討がなされてきたが、検討のプロセス等に対し、様々な御意見があり、その整備に至っていない状況

場所ありきではなく、まずは、施設の機能、規模、構成等について専門的・客観的な見地から検討を行った上で、整備候補地について検討することが必要であると考え、令和2年10月に県内外の各分野の専門家で構成する「総合体育館基本構想検討委員会」を設置